

【室内活動】

活動名		キャンドルのつどい				
概要		○火を囲んで、歌ったり、ゲームなどをしながら温かい交流の場をつくる。				
ねらい		○仲間とともに過ごす喜びを味わい、友情を深める。 ○静かに自分をみつめ、自己を高めようとする心情を培う。 ○火の神秘さや火の大切さに気づかせる。				
関連教科等		音楽・体育・総合				
指導形態		①自主活動で実施、④外部講師による指導が可能(有料)				
時 期		通年	時間帯	夜	対象	低学年～
場 所		体育館(～200人) 1・2研(～80人) 第2ホール(～80人) 第5研修室(～40人)	人数	～200人程度	所要時間	1～2時間
準備物		施設で準備できるもの		団体・個人で準備するもの		
		放送用器具一式、テーブル、営火長衣装 大燭台、小燭台、ロウソク		スタンツ小道具 体育館シューズ(体育館で行う場合)		
進め方・展開例						
内容				留意点		
活動前		○打ち合わせを行う。 ・物品の受け渡し(準備物参照)		○外部講師による指導の場合は、活動内容について打ち合わせを行う。		
活動の説明		○キャンドルのつどいの流れ ○ロウソクの扱いについて (分火の仕方、消し方と後処理)		○静と動のメリハリをつけさせる。 ○分火は火のついていないロウソクを火のついているロウソクに近づけるようにする。		
展 開		※特に決められた形式はない。それぞれの団体の実態を考慮して実施することが望ましい。		○必要な役割例。 ・火の神 ・営火長 ・火の守(営火長アシスタント) ・火の司(司会者) ・火の子(班編成による)		
		○事前準備(会場) ・中央におく燭台を設置しておく。 ・ロウソクと燭台(皿)を会場に運んでおく。 ・その他必要なもの(放送用具など)を準備する。		○ロウソクと燭台(皿)は事務室まで。 ○施設のものを利用する場合は準備前に貸出しカードを記入。		
		1部 火をむかえる		※ 活動資料「キャンプファイヤー展開例」ページ参照		
		2部 火をかこむ				
3部 火をおくる						
まとめ		○余韻を大切にしたい。 ○楽しかったことやよかったこと、感想など自由に話し合う。 ○火の始末をきちんと行う。				
評価		○仲間とともに楽しく活動し友情が深められたか。 ○自己を表現することができたか。				
発展		○火の神秘の力により心静かに自己を見つめるには最も適した活動である。仲間との友情をねらいとするには最もポピュラーであるが、自己表現や自己を真剣に見つめ直すことに着目して実施することも有効である。				